

平成 26 年度文化財保護事業報告

1. 委員会

「清須市文化財保護条例」(平成 17 年 7 月 7 日条例第 85 号)、「清須市文化財保護規則」(平成 17 年 7 月 7 日教育委員会規則第 31 号)に基づいて設置。

- ・文化財保護審議会：年 1 回開催 (平成 27 年 3 月 24 日)

2. 文化財保護

時代推移の中で先人が残した貴重な文化財を後世に残すべく、郷土の歴史の特徴をあらわした文化財資料を中心に保存と保護を図る。

- (1) 文化財の指定：清須市内の指定文化財は国・県・市指定を含めて 33 件。

【清須市内指定文化財等一覧】(資料 3)

※国指定 1、県指定 3、市指定 28、国登録 1 (計 33 件)

- (2) 埋蔵文化財の保護

清須市内には、弥生時代最大級の集落とされる朝日遺跡、清洲城下町遺跡等が存在し清洲地区を中心に埋蔵文化財包蔵地が広く分布している。埋蔵文化財包蔵地の周知、有無の確認、発掘にかかる届出の受理、発掘調査等の実施等に対応している。

【清須市内の遺跡一覧】(資料 3)

【平成 26 年度】(平成 26 年 3 月 15 日現在)

93 条届出	94 条通知	有無照会	確認調査	発掘調査
102 件	7 件	1 件	1 件	0 件

※93 条届出：民間開発に伴う届出、94 条通知：公共事業に伴う通知

- ① 発掘調査

本年度はなし。ただし、昨年度の調査(一場御園地区)の報告書を刊行。

- ② 清洲城下町遺跡柿経保存処理

25 年度より 4 ヶ年計画で実施。本年度も前年度に引き続き約 170 片を処理。

3. 啓発活動

生活様式及び社会環境の変化の中で、失われていく文化遺産(埋蔵文化財・史料・民俗・環境・自然等)の大切さを理解し、文化財愛護と保護活動への意識向上を図る。

- (1) 歴史資料展示室における資料の公開

清須市立図書館内歴史資料展示室において、市の歴史を概観できる常設コーナーと、より深いテーマ性をもつ展示を行う企画コーナーを設け、市民に親しみの持てるわかりやすい展示をめざす。

- ① 「懐かしい清須美濃路沿いの職人の店ーものづくりの原風景ー」

・会 期 平成 26 年 4 月 12 日(土)～7 月 13 日(日)

- ・展示内容 昭和30～40年頃の美濃路沿いには様々な商店が立ち並び、製造業もさかんであった。マッチ・線香・焼印・曲げ物などいろいろな品物がつくられた。往時賑わった美濃路沿いの職人の店の「ものづくり」について、製造過程を含めて当時の様子的一端を紹介した。

- ・入室者数 4,017名

② 企画展「戦争の軌跡―出征と帰還―」

- ・会 期 平成26年7月26日(土)～11月30日(日)
- ・展示内容 戦後69年がたち、戦争の悲惨さを身体で知っている人たちが少なくなり、戦争体験が風化しつつある今日、平和の大切さを訴える旨をもって今回は、戦争で外地に出征した兵士について清須市所蔵資料を中心に戦争に関連する資料を展示した。

- ・入室者数 7,203名

③ 企画展「学び舎と教科書―江戸から明治へ―」

- ・会 期 平成26年12月13日(土)～平成27年3月29日(日)
- ・展示内容 江戸時代から明治時代までの教科書・参考図書の展示を清須市所蔵資料を中心に展示。教育の制度の確立・整備の歩みを、学び舎と教科書の歴史を切り口にして関連の深い教育資料の展示により、その足跡を辿った。

- ・入室者数 2,835名(平成27年2月末現在)

(2) 文化財講座・講演会

① 文化財講座

- ・会 場 清洲市民センター3階302視聴覚室
- ・受講者数 延べ171名)

回	月/日	受講者	内容	講師(敬称略)
1	5/22 (木)	47	戦国大名はどのような城下町をつくったか ―日本のなかの清須―	大阪市立大学大学院文学研究科 教授 仁木 宏 氏
2	6/26 (木)	42	清須城をあり様を想像する ―全国の守護所からみる清須の姿―	県埋蔵文化財センター 調査研究専門員 鈴木 正貴 氏
3	7/24 (木)	41	信長の城づくり事始め ―小牧山城の発掘調査成果から―	小牧市教育委員会 考古学専門員 小野 友記子 氏
4	8/21 (木)	41	美濃守護土岐氏と斎藤道三 ―守護所大桑の成立を中心に―	恵那市役所 三宅 唯美 氏

② 文化財講演会

- ・講演名 「信長の城から戦国の歴史を考える」
- ・講師 千田 嘉博 氏(奈良大学学長)

- ・期 日 平成27年3月1日(日)
- ・会 場 清洲市民センター1階ホール
- ・参加者数 145名
- ・内 容 信長ゆかりの愛知県の清須城・小牧山城、岐阜県の岐阜城、滋賀県の安土城のように、遺跡として残された考古学的な資料(物質資料)である城跡に注目して、城跡から信長とその時代を解き明かす講演を行った。

(3) 文化財関係刊行物の販売

生涯学習課と西枇杷島問屋記念館にて刊行物の販売を行なっている。

【文化財関係刊行物一覧】(資料3)

(4) 歴史文化振興事業

平成19年度に新川町史編さん事業終了後、清須市で所蔵する資料の調査・整理作業を継続して行っている他、歴史資料展示室の企画・運営等を行っている。

(5) 守護所シンポジウム2「新・清須会議」

後述の「新・清須会議実行委員会」より申出があり共催にて実施した。

- ・申出趣旨 平成16年に守護所シンポジウム@岐阜「守護所・戦国城下町を考える」を開催、戦国時代の都市について追究したが、10年目となる節目の今年、最新の成果を踏まえながら、再び守護所シンポジウムを行う。

日本の都市の歴史を語る上で織田信長の存在を欠かせないが、中でも「清須」・「小牧」は重要な役割を果たした。今回、信長亡き後の対応を話し合った著名な「清須会議」に準えて、シンポジウムを清須市で開催する。

守護所シンポジウム2「新・清須会議」では、1580年代後半までの戦国城下町を対象とし、これまでの全国での調査研究の成果を俯瞰して、研究の到達点や課題を示す機会とする。

- ・期 日 平成26年8月23日(土)・24日(日)
- ・会 場 清洲市民センター1階ホール
- ・共 催 清須市教育委員会、新・清須会議実行委員会
 ≪実行委員会メンバー：鈴木正貴(代表：愛知県埋蔵文化財センター)、仁木宏(大阪市立大学)、柴垣(市教委)他≫
- ・参加者数 23日(土)：350名、24日(日)：180名
- ・内 容 23日(土)「濃尾地域の室町時代～戦国時代の都市を考える」
 尾張・美濃を中心とした事例発表と10年間の成果と展望をまとめた基調報告
 24日(日)「全国の室町時代～戦国時代の都市を考える」

全国各地の事例発表、戦国時代から織豊期までの守護所・戦国城下町を通観した総論、討論会

4. 施設管理・運営

各方面からの寄贈により収集された貴重な文化財資料の保存・管理に努めるとともに、それらを整理・展示して広く一般公開を図る。

◎ 西枇杷島問屋記念館

- ・名称 清須市西枇杷島問屋記念館
- ・所在地 清須市西枇杷島町西六軒20
- ・面積 敷地面積 1,391.55㎡ 延床面積 151.62㎡
主屋 98.82㎡ 離れ 52.80㎡
- ・構造 木造2階建
- ・開館 平成5年4月
- ・概要 「下小田井の市」の創始者の一人といわれる九左衛門家の住居を、平成4(1992)年に、移築復元したもの。明治初期に建てられ、美濃路を形成してきた町家のなかでも江戸時代の青物問屋の様式を伝える貴重な建物。
- ・開館日数 308日(57日休館)
- ・入場者数 2,248名(2月末日現在)

5. 指定文化財補助

市指定文化財(個人等管理)に対し、修理・管理・公開について補助を行った。

- (1) 修理費補助 有形民俗文化財(山車) 3件
- (2) 管理費補助 ① 有形文化財 7件
② 有形民俗文化財(山車) 6件 計13件
- (3) 公開費補助 有形民俗文化財(山車) 5件
(尾張西枇杷島まつり5件)

(4) 文化財関連団体

○ 西枇杷島町山車保存会

- ・目的 西枇杷島に所在する山車の保存・管理、尾張西枇杷島まつりにおける山車の運行を図る。
- ・役員 会長 箕浦信夫 副会長・会計他
- ・会員等 橋詰町、問屋町、東六軒町、西六軒町、杵西町の町内会会員
- ・主事業 尾張西枇杷島まつりにおける山車運行他